

CIA 局長が拷問報告書に抗議、ブッシュ政権の戦略を擁護

【訳者コメント】この暴露はアメリカにとって相当の打撃となる大事件で、さすがに各報道機関が報じている。当然ながら、ネット上でもこれを扱う評論が多い。ここにこれを翻訳紹介したのは恐怖ポルノ的な興味からではない。この記事からも、他のどんな記事からも浮き上がってくる一つの謎がある——なぜ**必要のない**拷問をするのかということだ。「吐かせる」というのは単なる名目としか思えない。そもそも「吐かせる」ことなどないはずである。CIA で行われてきたことの本質は、拷問のための拷問のように思える。なぜだろうか？ 国営サディズム？ 筆者にも読者にも課せられた謎解きである。

RT

December 11, 2014



ジョン・ブレナン CIA 局長

米中央情報局（CIA）局長が、木曜日、上院委員会によって、ブッシュ政権の下で拘留者に対して用いられた残忍な拷問戦術の内容が公表された 2 日後、彼の部局がかつて“強化された訊問方法”を用いたという主張に、抗弁のスピーチを行った。

上院調査委員会が CIA のかつての訊問のやり方について、いわゆる「拷問報告」を公表して以来はじめての発言で、局長の John Brennan は、報告にある、情報局役人が議会や国民をミスリードする意図があったという主張に抗議した。ただ、局員の一部は責任を問われても仕方がないことを認めた。

ブレナンは 45 分間の貴重な演説で、CIA は、上院報告が述べているように意図的に、大統

領や国民を騙したつもりはないと主張し、また、論争になっている戦術は、拘留者から情報を引き出すのに役に立っていない、という主張に反論を試みた。ブレナン局長は、CIAには改善の余地があることは認めたが、2001年9月11日のテロ攻撃の後、アメリカの情報共同体が十分な用意もなく、「未知の領域」にあったときに、「国家と特にこの機関は多くの正しいことを行った」と述べた。

「我々は拘留者を収容した経験もあまりなく、局員には訓練された訊問者はほとんどいなかった」とブレナンはCIAについて説明した。「しかし大統領は9・11後6日間、そのようにする権限を我々に与え、それを実行するのが我々の仕事でした。」9・11後のCIAの戦略を指令した、米大統領ジョージ・W・ブッシュと副大統領のディック・チェイニーは、今週初め、長く待たれていた上院委員会の報告の公開と同時に、調査委員会が問題とした戦術について、弁護を行った。しかし米議員の一部は、ブッシュ政府の考え方を受け入れず、Mark Udall 上院議員（共和、コロラド）は、水曜日午前の上院での長いスピーチの中で、ブレナンの辞職を求めるほどだった。

しかしブレナンは、ブッシュ政府のCIA局長ではなかったにもかかわらず——彼がこの職に就いたのは1年半前、オバマ大統領の任命によるもの——彼は木曜日、CIAを弁護して、今週の報告で長々と描写された“強化された訊問方法”（EIT、Enhanced Interrogation Tactics）は正しかったと供述し、CIAに拘束され、そのような方法による訊問を受けた者の一部は、実際に重要な情報を漏らしたと言った。しかしその情報が、睡眠を奪うとか水責めとか、その他、上院報告に詳述されているような残忍な拷問が、何日も続いた結果であるかどうかはわからない、とブレナンは述べた。

<https://soundcloud.com/rttv/powell-to-bush>

関連記事：<http://rt.com/op-edge/213403-torture-report-security-terror/>「米政府はCIA拷問報告を、安全保障とテロへの戦いという概念を強化するのに利用している」

それどころか逆に、拷問戦術を用いることは効果がなく不必要で、拘束された者は拷問を終わらせたいために虚偽の情報を教えることになる、と上院報告は結論した。ブレナンは同意して、局員の一部には、9・11の直後には一線を越える者がいたが、この“強化された訊問方法”は、テロ容疑者から重要な情報をうまく引き出すという点で、間違いなくある役割を果たしていると主張した。

これらの拷問戦術とその結果の間の「因果関係」は「わからないし、知ることはできない」とブレナンは言った。「しかし、拘束された者たちにEITを行って引き出した情報には、何

の価値も有用性もないというのは、全く根拠を欠いた主張です。」

「少数のケースとして、情報局員が許されていない訊問方法を用いたことはあります」と、ブレナンは木曜日の演説のあるところで認め、個人的にはそういう戦術は「嫌悪すべき」ものと考えると言った。

「こうした落ち度は言い訳したり、軽く見たり、否定したりすべきものではありません」とブレナンは付け加えた。彼はこうした落ち度を「嫌悪すべき」ものと認めはしたが、ある AP 通信記者に木曜日の集会で質問されたとき、EIT を“拷問”だとは言わなかった。

関連記事：<http://rt.com/usa/213663-brennan-cia-torture-report/> 「CIA は調停者を中心に
入れて拷問を続けるだろう——前英国ウズベキスタン大使」

「まず私は確かに、CIA 局員たちが、合法的と認められた訊問方法として与えられていた方法の指針を、越えたことがあるのは認めます。彼らは限度の枠を破りました。それは先にも言ったように、ある場合には、かなりひどいものでした。私はこれを嫌悪すべきもの (abhorrent) と考えます」とブレナンは言った。

「そういった活動をどう呼ぶかは他の方々に任せましょう。しかし私にとっては、それは確かに遺憾なことでした」と彼は言った。

木曜日の演説の別のところで、ブレナンは、CIA は信頼できないとする上院委員会の主張に挑戦して、この部局は「権力に真実を与えることに特別の誇りをもっている」と言った。

「私は記録を見て思うのですが、職員全体としては正しいことをしようとしたと思います。その頃起こっていたことを考えてみると、各個人が完全な正直さで振る舞っていたかどうかは、確信をもって言うことはできません。なぜあるやり方が用いられたかについて、明らかに問題がありました。」

上院調査委員会は、CIA の拷問計画について今週発表した報告書の、長い長い、500 ページ以上もあるサマリーの中で、非常に多くの問題を取り上げている。ブレナンは木曜日の演説で、調査委員会が CIA を信頼できないと誤った判断をしたと言って憤慨したが、彼が近い将来、更に説明を求められるのは必至と思われることがある。それは上院の発見したものの一つで、この局長の断言していることと特に顕著に矛盾する。それは McClatchy という記者のブレナンに対する、CIA によって水責め (waterboarding) にされたのはたった 3 人だという証言は大丈夫かという質問への、彼の答えである。ブレナンは一步も引かず、もっと

多くの拘留者が、この溺死まがいの拷問を体験したという委員会の主張を退けた。

「私の見、また読んだすべてに基づいて、それを経験させられた者は 3 名だったことがはっきりしています。私は自分で承知していること、読んだこと、私の調べたデータについてしか言うことができません。」

9・11の当時、副局長の職にあっただけではあるが、ブレナンは木曜日、その当時 CIA 拘留者たちに対して用いられた拷問戦術の一部を、確かに知っていると言明した。

関連記事: <http://rt.com/news/213483-cia-torture-country-scandal/> 「あまり名誉にならない——CIA 拷問報告に名を挙げられ恥をかかされた 7 か国」